

練習船勢水丸における新型コロナウイルス感染防止対策

奥村 順哉^{1*}, 中村 亨¹, 高野 雅貴¹, 石川 輝², 神原 淳², 前川 陽一¹

¹ 三重大学大学院生物資源学研究科附属練習船勢水丸

² 三重大学大学院生物資源学研究科

Infection Prevention for COVID-19 on Training and Research Ship “SEISUI MARU”

Junya OKUMURA^{1*}, Toru NAKAMURA¹, Masaki TAKANO¹, Akira ISHIKAWA²,
Jun KOBARA² and Yoichi MAEKAWA¹

¹ Training and Research Ship “SEISUI MARU”, Graduate School of Bioresources, Mie University, 1819 Oguchi-cho, Matsusaka, Mie 515-0001, Japan

² Graduate School of Bioresources, Mie University, 1577 Kurimamachiya-cho, Tsu, Mie 514-8507, Japan

Abstract

The new coronavirus (COVID-19), which has spread all over the world, has a great impact on today's social structure and economy. Training and Research Ship “SEISUI MARU” was also affected by this, and it was necessary to take new measures to prevent the spread of coronavirus infection, such as reviewing plans and changing work systems. This paper describes the changes in the operational status of the ship from the beginning of the global epidemic of the new coronavirus to the present, and the changes in various infection prevention measures for the new coronavirus, actually implemented by Mie University and the ship, are listed in chronological order, showing the history of the fight against the new coronavirus.

The main prevention of infection measure taken on “SEISUIMARU” was to require the crew and passengers to take care of and record their health condition on a daily basis. The number of passengers on board was limited to seven in order to ensure that crew and passengers were accommodated in private rooms on the voyage. As a result of these prevention of infection measure, we were able to conduct all of the voyage training in 2020. In 2021, we began inoculation of the new coronavirus vaccine, and we will continue to take all necessary prevention of infection measures to ensure the safe operation of the ship.

Key Words: Training and Research ship, SEISUI MARU, coronavirus, COVID-19, prevention of Infection, cluster, social distancing

1. はじめに

世界的に感染拡大となった新型コロナウイルス (COVID-19) は今日における社会構造, 経済に

至るまで大きな影響を与えている¹⁾。三重大学大学院生物資源学研究科附属練習船勢水丸 (以下, 本船) もその影響を例外なく受けており, 運航計画の見直しや勤務体制の変更等, 新型コロナウイ

2022 年 9 月 22 日受理

¹ 〒 515-0001 三重県松阪市大口町 1819-18 (練習船基地)

² 〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

* For correspondence (e-mail: j-okumura@bio.mie-u.ac.jp)

ルス感染拡大防止に関する対策の必要に迫られた。

本稿では新型コロナウイルスが世界的に流行した当初から現在に至るまでの本船の運行状況の変化、三重大学（以下、本学）および本船で実際に行った新型コロナウイルスの感染防止対策について報告する。

2. 勢水丸概要

本船は、三重大学大学院生物資源学研究科に所属する附属練習船であり、伊勢湾・熊野灘から本邦南方黒潮海域、南西諸島周辺海域、東シナ海を実習海域として、水産学・海洋学等に関する実習・調査等を行っている（表1）。

3. コロナ禍における本船の運航状況・新型コロナウイルス感染防止対策の変遷とその現状

令和2年1月14日、新型コロナウイルスがWHO（世界保健機構）によって確認され、新型コロナウイルスは日本国内においてもその猛威を振るっている²⁾。令和2年2月初め、横浜港に入港していた大型客船での新型コロナウイルス集団感染（クラスター）が発生し、コロナ禍において、閉鎖的な船舶という環境がいかに危ういか人々の注目を集めていた。この他にも船舶でのクラスター発生という事態が相次ぎ、同様の事態が起これえぬよう、本船にも一層の感染防止対策の必要が迫られた。本船で行った感染防止対策とその変遷を社会情勢および本学全体、生物資源学科、本船それぞれの対応を分類し表2にまとめた。本項では以下にその詳細を記述する。

3.1 新型コロナウイルス確認から全国緊急事態宣言発令へ

新型コロナウイルスが確認されて以来、本学は、この事態に対応するべく大学本部に新型コロナウイルス緊急対策本部（以下、大学対策本部）、危機管理委員会を設置し、その時々に対応が本学のホームページ³⁾上に記載された。また、本学生物資源学研究科においても研究科長を本部長とする新型コロナウイルス対策本部（以下、研究科対策本部）が設置され新型コロナウイルス感染防止対策の指揮がとられた。

本船の対策は令和2年2月18日、教育関係共同利用拠点事業^{4), 5)}の一環である中部大学の単独航海実習から始まった。この時点では明確な新型コロナウイルスの感染防止対策が存在しなかったため、生物資源学研究科学務担当と協議し、実習中はマスク着用を指導し、積極的な消毒を呼び掛けることとした。また当時入手困難であったマスクについては中部大学側に用意するよう依頼した。上記対策の結果、中部大学の単独航海を無事に終えることができた。2月24日、本学学生を対象とした乗船実習Ⅱ＋海洋観測実習航海第1班の航海では、実習生は大学発のスクールバスに乗る前に検温と問診を行い、健康状態に問題が無いことを確認した上でそれを記録したものを研究科対策本部に提出し、実習期間中は毎日の検温とその記録を行うなどの対策を行った。実習中の検温については乗組員も対象とし、その旨を船内向けに注意喚起とした。本実習は寄港地（紀伊勝浦港）入港を実習項目に含んだ5泊6日の実習であったが、大学対策本部からの指示により、無寄

表1 勢水丸主要寸法

総トン数	318 トン
国際総トン数	491 トン
長さ（全長）	50.9m
長さ（垂線間）	42.5m
幅（型）	8.6m
定員	44 人（乗組員 16 人，教員 2 人，学生 26 人） コロナ禍においては、教員と学生の定員を計 7 人までに制限した
最大速力	13.8kn
航海速力	10.0kn

表2 新型コロナウイルスに関する出来事、感染防止対策の変遷

年 月 / 日	三重大学及び勢水丸で行われた対策、主だった出来事	社会情勢	三重大学	生物資源	勢水丸
2020 1/14	WHO が新型コロナウイルスを確認	○			
2/17	中部大学の単独航海実習の感染防止対策について生物資源学務係と協議			○	
2/18	舷門に消毒液を設置し、乗船者には手指の消毒、マスクの着用を指導				○
2/24	令和元年度乗船実習Ⅱの第1班目の航海を無寄港・短縮日程で実施			○	
3/3	令和元年度乗船実習Ⅱの第2班、第3班の実習を中止・延期の要請 (新型コロナウイルス対策本部)			○	
3/5	令和元年度3月以降の航海実習を中止・延期(新型コロナウイルス対策本部) 三重大学の来年度入学式が中止が決定		○	○	
3/6	船内向けの注意喚起を更新、行動記録の作成を推奨することを追記				○
3/17	ハンドドライヤーの使用を禁止とし該当箇所にはペーパータオルを設置				○
3/23	前期授業開始(4月17日)までの航海を中止(練習船運営委員会)			○	
3/26	保健管理センターにて有効な感染防止対策を聴取				○
4/6	前期講義期間(8月7日まで)の航海を全て中止・延期(練習船運営委員会)			○	
4/7	船内の注意事項に行動記録の推奨を義務とすること、休日時の検温記録、勤務時間中は可能な限り換気を行う項目を追記				○
4/13	本船への訪船者に対する注意事項を勢水丸ホームページに掲載				○
4/16	本船より他大学(大学校)の練習船に向けて情報共有を求める				○
4/20	当直者1名を在船、他の乗組員は在宅勤務の勤務体制に移行				○
4/21	他大学(大学校)各船舶の運行状況、感染防止対策を集約し一覧表を作成				○
4/30	学長より「三重大学新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」について策定したと通知。制限レベルは2に該当		○		
5/15	三重県より三重県指針 ver1 が発出	○			
5/21	「三重大学の新型コロナウイルス感染症拡大防止体制の移行について」、 「三重県指針」を船内に掲示 「三重大学における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」の制限レベルの2から1への移行が決定		○		○
6/1	当直者1名による在船勤務から完全半舷体制へと移行				○
6/4	「三重大学における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」の制限レベルの1から0.5への移行が決定		○		
6/11	危機管理委員会へ船内紹介動画を作製、提出				○
7/13	令和元年度乗船実習Ⅱ+海洋観測航海実習の未実施分及び令和2年度海洋総合航海実習について新型コロナウイルス対策本部に例外許可申請書を提出 保健管理センターに船内の給排気に関する資料を作成・提出			○	○
7/20	学生教室、船員食堂の各テーブルに衝立を作成、設置				○
7/30	三重大学における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針の制限レベルが0.5から0.5+に変更		○		
8/3	医学部クラスター発生、学長より注意喚起が発出。三重県「緊急警戒宣言」が発令	○	○		
8/7	令和元年度乗船実習Ⅱ+海洋観測航海実習の未実施分を停泊中の船舶を用いて実施することが決定			○	
8/14	三重県「緊急警戒宣言」が8月末までに延長	○			
8/17 ～9/9	令和元年度乗船実習Ⅱ+海洋観測航海実習の未実施分第2班、第3班の実施			○	
9/11 ～9/26	海洋総合航海実習を新型コロナウイルス対策本部に提出した感染防止対策をした上で実施。以降の航海実習も同様の対策を行って実施			○	
9/16 ～9/18	環境科学～海に親しむ～をオンラインで実施				○
12/12 ～1/9	船舶の整備・検査のため株式会社新来島サノヤス造船大阪製造所に入渠。大阪は三重大学の指定する特別警戒地域であったため別途注意喚起を掲示				○

年 月 / 日	三重大学及び勢水丸で行われた対策, 主だった出来事	社会情勢	三重大学	生物資源	勢水丸
2021 1/9	松阪港に帰港。大阪滞在のため以降 10 日間, 乗組員以外の船内立ち入りを禁止				○
1/19	乗組員以外の船内立ち入り禁止終了				○
3/6	船内の消毒液を新たに各居住区の通路に設置				○
3/25	三重大学の卒業証書授与式が行われた 令和 2 年度全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会が行われた		○		
4/12	乗組員の一人に 37.5 度以上の発熱があり, 出勤の自粛, 健康状態の記録, PCR 検査の受診を要請。他の乗組員については発熱が生じた際に早急な連絡を依頼				○
4/19	三重県「緊急警戒宣言」が発令	○			
4/20	上記乗組員について PCR 検査結果は陰性, 他異常なしのため出勤可能と判断				○
4/22	出勤後業務を行うにあたって第 3 者確認の下に検温, 記録を新たに実施				○
5/10	大阪府, 兵庫県, 京都府, 東京都, 愛知県, 福岡県等に「緊急事態宣言」, 三重県にも「まん延防止等重点措置」が 5 月末を期限として発令	○			
5/22	船内に設置されている手拭きタオルを除去しペーパータオルに入れ替え 「三重大学における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」が「三重大学における行動指針」に改定		○		○
5/27	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期限が, 6 月 20 日まで延長	○			
6/7	「三重大学における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針」が改定 「重点留意事項」が新たに HP 上に掲載		○		
6/11	本学保健管理センターより, 三重大学における新型コロナワクチンの職域接種にかかる希望調査が実施		○		
6/17	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期限が, 7 月 11 日まで延長 緊急事態宣言の対象区域を沖縄県のみとする	○			
7/2	三重大学における新型コロナワクチンの職域接種が実施開始		○		
7/8	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期限が, 8 月 22 日まで延長 宣言の対象区域に東京都を追加	○			
7/30	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期限が, 8 月 22 日まで延長 宣言の対象区域に埼玉県, 千葉県, 神奈川県, 大阪府を追加	○			
8/5	変異株であるデルタ株が流行。世界全体で感染者が 2 億人を超す	○			
8/17	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期限が, 9 月 12 日まで延長 宣言の対象区域に茨城県, 栃木県, 群馬県, 静岡県, 京都府, 兵庫県を追加	○			
8/25	緊急事態宣言の対象区域に北海道, 宮城県, 岐阜県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 岡山県, 広島県を追加	○			
8/26	「三重大学における行動指針」の事務業務および学内会議のレベルが 2 に引き上げ		○		
9/9	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期限が, 9 月 30 日まで延長 宣言の対象区域から宮城県, 岡山県を削除	○			
9/30	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除	○			
10/1	「三重大学における行動指針」の事務業務および学内会議のレベルが 1 に引き下げ		○		
11/11	「重点留意事項」が更新		○		

港での 3 泊 4 日の航海日程に短縮して行った。そして, 3 月 3 日には研究科対策本部より, 同実習の第 2 班および第 3 班の実習を中止し, 延期することを要請された。3 月 5 日には研究科対策本部より今後の実習航海の中止または延期する旨の連

絡が届いた。その後, 3 月 9 日に練習船運営委員会において, 令和元年度の 3 月以降に予定していた航海実習を全て取りやめ, または延期とすることが正式に決定された。3 月 23 日には, 令和 2 年度の前期授業開始が予定の 4 月 10 日から 4 月

17日に延期となった背景から、4月17日までの航海を中止とすることが練習船運営委員会によって決定された。また、船内向けの注意喚起の書面には、これまでの検温、積極的な手指の消毒、マスクの着用に加えて、万が一、本船乗組員の中での新型コロナウイルスの感染が確認された場合に、有用な情報になるよう乗組員各自の行動記録をそれぞれ作成することを推奨とする文章を追加した。更に船内の各所（船橋、学生教室、乗組員食堂、調理室、洗面所、トイレ、手洗い場）に設置されていたエアタオルを飛沫拡散防止の観点から使用を禁止し、ペーパータオルとその専用ゴミ箱を設置した。また、保健管理センターに船内での有効な感染防止対策について意見を伺い、マスクの廃棄を専用のごみ箱で行うこと、船内の船内各所の手すり、ドアノブなど人が触れる部分の消毒を少なくとも1日1回定期的に行うこと（停泊中においては勤務者が退勤した後に衛生担当者が船内の消毒を行う）、そして訪船者については、船内に

立ち入らせずできるだけ甲板上での対応とした。特に外部からの新型コロナウイルスの感染リスクをできる限り抑えるため、訪船者の対応については上記のことに加え、打ち合わせ等の船内での対応が必要である際には事前の訪船連絡、当日の検温と14日前からの発熱・喉の痛みがないことの確認、海外の渡航履歴がないことの確認および乗船前の手指の消毒を依頼する旨を本船のホームページ上に明記した⁶⁾。

年度は変わり令和2年4月6日、本学においては、前期授業期間（令和2年8月7日まで）のすべての講義をオンラインで実施することが決定し、本船においてはその期間中のすべての航海の中止または延期が練習船運営委員会にて決定した（表3）。また、4月7日には船内に掲示した感染防止対策において、行動記録を義務とすること、検温の記録については休日の体温も記載すること、船内の換気について勤務時間中は可能な限り長船首楼甲板居住区、船尾側通路、ウェット研究室の船

表3 新型コロナウイルス感染症によって多大な影響を受けた本船の令和2年度運航計画

令和2(2020)年度 練習船勢水丸運航計画																																国立大学法人 三重大学									
区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	日数	教育	研究	地・社	管理	計				
4月 ～ 7月	(4月から7月までの航海はすべて延期または中止)																																								
8月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	6					6				
	夏季特別休業(11日)及び 夏季一斉休業(12～14日)																															2001(停泊実習) 乗船実習①	2002(停泊実習) 乗船実習②	2003(停泊実習) 乗船実習③							
9月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	12					12					
	2004(停泊実習) 乗船実習④																															2005 船 海洋総合航海実習①	環境科学 海に親しむ オンラインにて実施予定	2006 船 海洋総合航海実習②	2007 2008 海洋環境調査実習						
10月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	5			3		8				
	台風14号避航																															2009 山田 海洋地球環境乗船実習①			水産生物学実習①						
11月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	6	3				9					
	2011 宮崎・河村 水産生物学実習②																															2012 博士課程特別調査研究	2013 山田 海洋地球環境乗船実習②	2014 宮崎 研究航海①							
12月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	3			20		23				
	2015 宮崎 研究航海②																															R2年度 第二・三種中間検査および一般修繕工事									
1月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	6			9		15				
																																2016 山田 2017 山田 海洋地球環境乗船実習③ 海洋地球環境乗船実習④	2018 山田 海洋地球環境乗船実習⑤								
2月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	6					6				
																																2019 船 乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習①	2020 船 乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習②								
3月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	12					12				
	2021 船 乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習③																															2022 船 乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習④	2023 船 乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習⑤	2024 船 乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習⑥							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	53 日	6	0	32	91					

内外出入口を開放するといった項目を追記した。
(※1)

4月16日には緊急事態宣言の全国拡大²⁾に伴い、大学対策本部は感染リスクを軽減するため全学職員に対して在宅勤務を行うよう推奨した。4

月 20 日には、本船では台風避難のための緊急出港や、その他有事の際に船を動かせるように、保安上の必要最低限の人数として停泊中は出勤者を当直者 1 人のみとして、他の乗組員については在宅勤務とした。4 月 30 日には本学学長から大学

[illegible]

内の新型コロナウイルスの感染状況をレベル0～4の段階に分類し、それぞれの状況において対応方針を示した『新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針』が発出された。緊急事態宣言下であったため講義・実習はオンラインのみでの実施とするレベル2に設定された。5月21日には危機管理委員会および教育研究評議会において採択された「三重大の新型コロナウイルス感染症拡大防止体制の移行について」が発出され、船内向けに掲示、周知した。同時に三重県が新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け「新しい生活様式」の定着を前提として定めた三重県指針⁸⁾が発表されたためこれを掲示し、随時更新していくこととした。またこの時、『新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針』のレベルが2から1に緩和された。しかし、講義・実習に関してはレベル2同様オンラインのみに制限されていた。

3.2 緊急事態宣言の解除からの令和2年度を通して

6月1日の宣言解除に伴い、乗組員16人を8人ずつA班とB班、在船勤務と在宅勤務に分けた完全半舷体制の勤務体制にした。これは、出勤回数を減らすことによって感染リスクを低減させる狙いのほか、船舶という特殊な閉鎖的構造上、仮に新型コロナウイルスの感染者が出たとき、同時に船内で作業をしていた人間全てが濃厚接触者となることを避け、乗組員全員が一度に行動を制限されることのないように措置したものである。A班、B班はそれぞれ甲板部、機関部、司厨部各部署から人員を配置し構成した（A班：船長、三等航海士、一等機関士、甲板長、操舵手A、操舵手B、操機手、司厨手 B班：一等航海士、二等航海士、機関長、二等機関士、通信士、甲板次長、操舵手C、司厨長）。

6月4日には『新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針』のレベルが1から0.5に移行し、感染拡大に最大限の配慮をして一部制限下において実習を行うことができるようになったため本船もその準備を進めた。実習の実施にあたっては危機管理委員会によって定められたマニュアル「レベル0.5における対面授業や実験・実習などにおける感染予防対策について」の中に、練習船の実習は特に密な状況を作りやすく、換気

も困難であることから、より厳密な対応が必要になるとのことで、乗船者は通常時定員28人の2分の1となる14人を超えないものとする、海域は2日以内に松阪港（定係港）に帰港できる範囲とするといった様々な条件を提示された。本船はこれらの条件を満たした上で実習を実施するべく、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限配慮し航海実習を安全に行うためのチェックシート（図2）を作成した。また、6月11日には実習を行うにあたって危機管理委員会による本船への視察が予定されていたが、諸々の事情により訪船が困難となったため船内紹介動画を作製して提出した。7月13日には延期となっていた令和元年度乗船実習Ⅱ＋海洋観測航海実習（航海番号：2001～2004）の未実施分および令和2年度海洋総合航海実習（航海番号：2005, 2006）について実習を行うため、研究科対策本部に学生の参加を伴う教育研究活動の例外許可申請書および新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限配慮し航海実習を安全に行うためのチェックシート、実習時における実習生や乗組員の配置について記した資料を提出した。また、保健管理センターに本船の換気能力を説明するため、船舶設備規程第百十五条の二（換気装置）⁹⁾により設置を義務付けられた扉などを閉め切り密閉された状況においても必要十分な換気を行うことができる通風装置に関して説明資料を提出した。7月20日には本船独自に講義中や食事時の飛沫感染の防止対策として、学生教室、乗組員食堂の各テーブルに対面での向かい合わせを防ぐようにパーテーション（図3）を作成、設置（図4）し、同時期に船内の効率的な自然換気のため学生教室の舷窓（図5）、船内外出入り口への網戸（図6）を作成、設置した。

7月30日には危機管理委員会によって『新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針』のレベルが0.5から0.5＋という新たな枠組みに設定されたが、これらは本学職員の緊急事態宣言下の地域、流行地域（感染リスクが高まっている地域）への不要不急の出張を控えるもの、および上記の地域から来る者の本学への入構・入館を禁止するものであり、実習の実施についてはレベル0.5のままの制限であった。その後8月3日には三重県において県独自の緊急警戒宣言が発令された。一方、同時に本学では医学部内に新型コロナ

新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し航海実習を安全に行うためのチェックシート

練習船勢水丸

このチェックシートは船長を総責任者とし、船内衛生担当者（二航航海士）ならびに船内安全衛生委員（機関長、一等航海士、一等機関士、司厨長）が主となりその実務および指導を行う。実習時に関しては三等航海士もその実務および指導に加わる。

<乗船前>

- ☐ 乗船者の人数が7人以下であること。日帰りの航海に関しては13人以下であること。
- ☐ 乗船者は乗船2週間前から「自己健康行動記録シート」を記録していること。
- ☐ 乗船者はバス乗車の際に当日の朝の体温まで記入した「自己健康行動記録シート」に問題がないことを実習担当者に報告すること。
- ☐ 実習当日の体温が37.5℃以上、呼吸器症状や倦怠感がある者は乗船を控え、実習担当者はこれらの事項をバス乗車前に確認を行うこと。
- ☐ 航海中は起床後と夕食後に1日2回の検温及びその記録を行うことを周知すること。
- ☐ バス乗車前に手指のアルコール消毒を行い、座席は実習生同士が十分な距離をとれるように配置し、配置場所については実習担当者がバスの座席表に記録すること。
- ☐ 乗船者は乗船時に舷門に設置された消毒液による手指のアルコール消毒を行うこと。

<練習船基地>

- ☐ 基地建物入り口に備え付けられた消毒液による手指のアルコール消毒を行うこと。
- ☐ 管理棟2F学生控室内ではあらかじめ決められた机に一人ずつ実習生が座っていること。
- ☐ その配置を記録すること。
- ☐ 適宜窓の開閉等によって換気を行い、エアコンを使用し熱中症対策が適切に行われていること。

<船内全般>

- ☐ 就寝、入浴、喫食以外の船室内ではできる限りマスクを着用することを周知させること。
- ☐ 船内では密を避けるよう乗船者同士の距離を可能な限り1m以上あけるよう指示すること。
- ☐ 乗船中も作業後等は定期的に各所に設置された薬用ハンドソープまたは消毒液で手洗い、手指のアルコール消毒を行うこと。
- ☐ 朝の清掃時に船内各所の手すり、ドアノブをアルコール消毒すること。
- ☐ アルコール消毒に使用したペーパータオルや使用済みのマスクを廃棄する専用のごみ箱を設け、廃棄の際はビニール袋に密閉すること。
- ☐ 船内換気のため、ドア及び舷窓（丸窓）はできる限り開放すること。
- ☐ マスク、手袋、消毒液、体温計等の感染症対策用備品の在庫を実習生分は確保していること。
- ☐ 航海中に発熱などの感染症の症状が見られたら、個室に隔離し、直ちに航海を中止して松阪港に帰港すること。
- ☐ 航海終了日は乗船者が下船後に船内各所の手すり、ドアノブをアルコール消毒すること。

図 2-1 新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮し航海実習を安全に行うためのチェックシート

<学生教室>

- ☐ 学生教室において講義や食事など着席を要する時は対面で着席させないこと。また、机に仕切りを設けていること。
- ☐ 机にはあらかじめ番号を設定し、7人の乗船者は決められた座席に着席させること。またその場所を記録しておくこと。
- ☐ 食事の配膳は手指のアルコール消毒の上、自分以外の食物・食器等に触れないこと。
- ☐ 食事当番は食事終了後、アルコール噴霧とペーパータオルを使用し、学生教室の机、座席および出入り口のドアノブなど手を触れる場所のアルコール消毒を行うこと。
- ☐ テレビのリモコンにはラップなどでカバーを付け航海毎に交換すること。

<船橋（操舵区画）>

- ☐ 船橋内の人数は通常実習時は乗組員3人、実習生人名の計5名以内であること。
(ただし安全な運航上必要な場合はこの限りではない。)
- ☐ 当直に入る前、船橋に設置された消毒液にて当直者は手指のアルコール消毒を行うこと。
- ☐ レーダーをはじめとした航海計器、舵輪、テレグラフ、マイク等は当直交代時に前直者が消毒液を含ませたウェスで清拭すること。
- ☐ 実習生には乗船後に双眼鏡を1つずつ貸与し実習中はそれを使用させること。
- ☐ 貸与した双眼鏡は下船までに使用者がアルコール消毒を行って返却させること。
- ☐ 乗組員はその当直中、船橋に設置してある双眼鏡それぞれ1つを使用すること。自身が使った双眼鏡は当直交代時にアルコール消毒を行って元の場所に戻すこと。

<海図・研究区画>

- ☐ 海図やログブックの記入に使用する鉛筆は前もって各自に配布しそれを使用すること。
- ☐ 三角定規、デバイダー等の製図用具の使用後はアルコール消毒を行うこと。
- ☐ CTD オペレーション用パソコンのキーボードやマウス、マイクには直接触れないようビニール手袋を使用し、作業が終了したら破棄すること。

<甲板作業（機関実習含む）>

- ☐ 乗船時に配布した軍手を使用して作業を行い、軍手は各自がそれぞれ管理し下船時に乗組員が回収すること。
- ☐ 甲板上でもマスクをできるだけ着用することを推奨するが、甲板作業においては熱中症や酸欠の危険性があるため十分に注意を行うこと。
- ☐ 甲板上から船内に入るときは手指のアルコール消毒を行うこと。
- ☐ 機関実習中は実習終了時に制御室の手すりなど手の触れる箇所のアルコール消毒を行うこと。



図3 学生教室兼食堂・船員食堂に設置する飛沫防止パーテーション作成の様子



図4 飛沫防止パーテーション設置の様子（学生教室兼食堂）



図5 換気確保のための舷窓網戸設置の様子（学生教室兼食堂）



図6 換気確保のための船内外出入口網戸設置の様子（長船首楼甲板後部）

ウイルスのクラスターが発生したため学長より、複数人での会食の取りやめ、県境をまたいだ移動の自粛といった注意喚起が出された。

8月7日、全国的な新型コロナウイルス感染者急増、医学部クラスターの拡大を受け、練習船運営委員長はじめ研究科長、各関係者との協議の下、

8月17日より予定していた令和元年度乗船実習Ⅱ＋海洋観測航海実習の未実施分について航海実習としては行わず、松阪港停泊状態における岸壁での船内実習として行うこととした。危機管理委員会の定めたマニュアル「レベル0.5における対面授業や実験・実習などにおける感染予防対策に

ついて」に従い、乗組員以外の乗船人数を通常時定員の2分の1までとし、乗船者に発熱やその他感染の兆候が見られた際には個室に隔離できる環境であることといった条件を満たすべく、第1学生室から第7学生室それぞれを個室兼隔離室として使用するため、1回の実習における乗組員以外の乗船者を7人までとした。そのため、令和元年度乗船実習Ⅱ+海洋観測航海実習未実施分においては受講対象となる学生28人をそれぞれ4つの班に分け、8月17日～9月8日の期間で4回実施した。実習は松阪港停泊中の本船で行い、宿泊の際には各自自宅での宿泊と定め、2日間の日程で行われた。実習期間中は極力実習生同士の密集・密接・密着、いわゆる三密を防ぐため、実習生をあらかじめ1～7の番号に振り分け配置場所、行動順序の指定を行い、また乗組員に関しては、極力多人数の接触を避けるため、船長、航海士、機関士のみが指導にあたり実習項目を実施した。

3.3 コロナ禍状況における航海実習の再開

9月11日、コロナ禍の状況においては初となる航海を伴う実習として海洋総合航海実習第1班の航海を行うこととなった。本実習も令和元年度乗船実習Ⅱ+海洋観測航海実習の未実施分同様に新型コロナウイルス対策本部に教育研究活動の例外許可申請を行い、1回の実習における乗組員以外の乗船者を7人までに制限したため9月11日～14日、9月23日～26日の期間でそれぞれ3泊4日の日程で2回実施された（第2班は台風12号の影響により9月24日～26日の日程に短縮して行われた）。その後の航海実習も同様の手続きを行い実施した。

また、海洋総合航海実習の2航海の間にあたる9月16日～18日には全学対象の教養教育科目である「環境科学～海に親しむ～」の実習が行われた。この実習も例年では航海を伴う実習として行われていたが、令和2年度に関しては、教養教育院の決定によりオンラインによる実施となった。撮影した船内の紹介動画や過去の海洋観測の様子をオンライン講義用に編集した動画、船長や各航海士によるパワーポイントを用いた講義を行った。コロナ禍の状況においてはカリキュラムに示されたいずれの実習も上記のように従来の形態を変え、松阪港（定係港）停泊状態における岸壁での船内

実習、オンライン講義による代替実習、乗船人数を制限しての実習とケースバイケースに対応しこれらを組み合わせて実施するなど、制限されつつもできるだけ本来の実習目的を満たす形で実施した。

しかしながら1つの航海実習を複数班に分けて行うこととなった結果、航海日数は増加し運航計画を圧迫することとなった。航海日数が制限されていること、感染流行地域を含む三重県外からの人の移動を避けるため、他の大学がコロナ禍のため実習を制限している等々の理由の下に、例年行われてきた教育関係共同利用拠点事業における単独航海および公開実習航海を含む学外乗船者の受け入れはやむを得ず令和2年度においては中止することが練習船運営委員会にて決定された。またこれに伴って、その成果を発表する場である教育関係共同利用拠点シンポジウムも中止となった。よって令和2年度に行われる航海実習はインターンシップ関連科目を含む学部必修の航海実習に絞って行われた。

その後も航海実習は運航計画表（表3）の通りに行われた。また、令和2年12月12日から令和3年1月9日の期間において、第二種・第三種中間検査および一般修繕工事のため、乗組員が大阪府大阪市にあるサノヤス造船株式会社大阪製造所（現株式会社新来島サノヤス造船大阪製造所）に滞在した。大阪府は本学が指定する特別警戒地域¹⁰⁾であったため、保健管理センター確認の下に滞在中の注意事項を船内に掲示し、より高い意識をもって感染予防対策の徹底を乗組員に呼びかけた。滞在期間中は船内各所やドック宿舎内の本船乗組員使用スペースに消毒液、ハンドソープを設置した上で、勤務時間外での行動用に各乗組員に滞在日数分のマスク、ハンドソープ、携帯用消毒液スプレーの支給を行った。また、注意喚起として勤務時間外の行動も含めて乗組員に感染防止対策の徹底を呼び掛けその内容を大阪府のホームページ¹¹⁾に掲載されていた新型コロナウイルス感染予防対策とともに掲示した。

検査・工事を終えて松阪港に帰港した後も特別警戒地域である大阪府に滞在していたため、感染防止の観点から以降10日間を乗組員以外の船内への立ち入りを禁止とした。特に問題なく10日間が経過したため1月19日には立ち入り禁止の

制限は解除とし、引き続き来船予定者には事前の連絡、当日の検温結果報告、乗船時の手指の消毒、マスク着用をもって対応することとした。3月6日には本船での感染防止対策を再度見直し、これまでの舷門、船橋、学生教室、乗組員食堂、船尾側通路甲板出入口、研究室に加え各居住区の通路に新たに消毒液を設置した（図7）。

3.4 令和3年度における情勢

令和3年4月1日より勤務体制を通常体制に戻した。その後4月12日に乗組員の一人に37.5度以上の発熱があった。保健管理センターと協議を行い、出勤の自粛、健康状態の記録、松阪市保健所に連絡を取るよう当人に要請を行った。当人には保健所からPCR検査を受けるよう指示があり、他の乗組員については発熱が生じた際は早急に連絡をするよう依頼した。後日、PCR検査は陰性であり、経過観察においても異常がなかったため、4月20日に当該乗組員を出勤可能とした。そして4月22日には乗組員それぞれに今一度感染予防対策を徹底するよう注意喚起を行うとともに、これまで出勤前に行っていた検温とは別に出勤後業務を行うにあたって体温に異常がないか第3者確認の下に検温を実施しその結果を船内掲示の検温記録表（表3）に記載するようにした。5月22日には感染予防の観点から船内に設置されていた手拭きタオルを除去し、ペーパータオルに入れ替えた。また、本学では危機管理委員会より『新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針』を『三重大学における行動指針』¹²⁾に改定すると通達があった。一方、日本各地では感染者数が急増しており、5月10日に大阪、兵庫、京都、東京、愛知、福岡等の都市部に対して「緊急事態宣言」が、三重県にも「まん延防止等重点措置」が5月末までを期限として発出され、5月27日には、その期限が延長されるなど新型コロナウイルスは衰えを見せない感染状況であった。6月7日、本学においては『三重大学における行動指針』が一部改訂されるとともに新たに三重大学HP上に日常生活における感染防止対策の啓発として『重点留意事項』¹³⁾が掲載され、状況に応じ更新されることとなった。

その後も緊急事態宣言が再び期間を延長される中、本学では7月2日より、本船の乗組員を含め



図7 乗船口での消毒液設置の様子（舷門）

た大学職員、学生に対して新型コロナウイルスワクチンの職域接種が開始された。また同時期に全国的にワクチンの接種が進められており、8月7日には総接種者数が1億人を超えたと内閣府より公表があった。その一方、世界では新型コロナウイルスの変異株であるデルタ株が猛威を振るい、8月5日には世界全体で感染者が2億人を超す勢いとなった。8月25日には三重県にも緊急事態宣言が発令された。それを受け本学では、危機管理委員会より、8月26日に『三重大学における行動指針』の事務業務および学内会議のレベルが1から2に引き上げられることとなり、より積極的な感染防止対策の徹底が周知された。

その後も三重県を含めた多くの地域で緊急事態宣言の期間は延長が続けられたが、ワクチン接種が進んだ功もあって新規感染者は減少傾向となり、9月30日をもって全国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置を解除することが決定された。本学では緊急事態宣言の解除に伴い、『三重大学における行動指針』の事務業務および学内会議のレベルが2から1に戻され、引き続きマスク着用などの新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を厳守することとした。その後も新型コロナウイルス感染者数は穏やかに減少していき、11月11日にはコロナワクチンの接種率が70%を超えた。しかし、その状況においても感染を防ぐことが困難なことから危機管理委員会は『重点留意事項』を更新し、当該内容を周知するよう通達があった。本船ではこれを周知し、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に取り組んでいくこととした。

4. 感染防止対策まとめ

本船で行っている新型コロナウイルスの感染防止対策は、“2. 本船の運航状況・新型コロナウイルス感染防止対策の変遷”で述べたように刻々と変化していった。当初はマスクの着用、手指の消毒の徹底を行うに留まっていたが、船内各所への消毒液の設置や勤務時間外も含めた乗組員への検温の実施と記録、感染防止に必要な物品の作成・設置等、新型コロナウイルスの感染防止に有効となる対策が明らかになってくるにつれ、それらを随時船内の感染防止対策として取り入れた。また、日本航海学会誌 NAVIGATION の特集「海事分野における新型コロナウイルス対応」¹⁴⁾に掲載された練習船、客船など様々な船舶の新型コロナウイルス感染防止対策も参考とした。加えて保健管理センターからの助言により現在の感染防止対策を構築するに至った。また航海実習を行うにあたっては危機管理委員会、保健管理センター、新型コロナウイルス対策本部の指示の下、本船の船内や設備を紹介する動画や換気的能力、実習時において予想される配置の状況等を各関係部署に情報提供し、加えて保健管理センターの医師、保健師の訪船による視察を受け協議を行った。その結果、『三重大学における行動指針』に定める感染予防対策を講じた上で、可能な限り航海を伴う実習を行うに至った。それぞれの状況下において現在実施している新型コロナウイルスの感染防止対策について以下に記す。

4.1 船内生活における対策

危機管理委員会の定めた「対面授業や実験・実習などにおける感染予防対策について」¹⁵⁾に従い、船内生活における感染防止対策として以下のことを行った。

- (1) 船内各所（舷門、船橋、学生教室、乗組員食堂、調理室、船尾側通路甲板出入口、研究室、各居住区の通路）への消毒液の設置、マスク着用を推奨
- (2) 乗組員の休日を含む毎日の検温、勤務時における第3者確認の下での検温、行動履歴の記録を指示（表4）
- (3) 講義中や食事時の飛沫感染を防ぐため、学生教室、乗組員食堂の机に对面での向かい合わ

せを防ぐようパーテーションの作成（図3）、設置（図4）

- (4) 学生教室、洗面所、調理室、トイレのエアタオル使用を禁止、代替としてペーパータオルを設置
- (5) 定期的な換気を行うため、勤務時間中は定期的に長船首楼甲板居住区、船尾側通路、ウェット研究室の船内外出入口を開放
- (6) 船内の効率的な換気のため、学生教室の舷窓、船内外出入口（長船首楼甲板船内外出入口、ウェット研究室船内外出入口）への網戸を作成、設置（図5、図6）
- (7) ウイルス除去対応の空気清浄機を購入し、船橋、学生教室、乗組員食堂に設置（図8）
- (8) 船内各所の手すり、ドアノブなど人が触れる部分の定期的な消毒（停泊中においては勤務者が下船した後に衛生担当者が船内の消毒を行い、航海中においては朝の船内清掃時に消毒を行う）
- (9) 航海当直および機関当直の交代時には入直前の検温およびそれぞれの当直で使用した機器類の消毒
- (10) 訪船者を制限し、訪船がある際にはできるだけ甲板上での対応を実施。船内での対応が必要である際には、事前の訪船連絡、当日の検温と14日前までに発熱・喉の痛みがないことの確認、海外の渡航履歴がないことの確認および乗船前の手指の消毒を依頼する旨を本船のホームページ上に掲載
- (11) 上記の感染防止対策を記載した印刷物や三重県指針の掲示（随時更新）、注意喚起

4.2 航海実習における対策

危機管理委員会の定めた「対面授業や実験・実習などにおける感染予防対策について」に従い、実習時における感染防止対策として以下のことを行った。

- (1) 実習生には、実習開始2週間前からの行動履歴の記録、発熱の有無、のどの痛みや味覚・嗅覚に異常がないかを事前に確認し問題のなかった学生のみを乗船可能とする
- (2) 実習に際して本船で独自に「新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し航海実習を安全に行うためのチェックシート」を作成

表 4 乗組員のための検温記録表

検温のお願い

コロナウイルスの対策及び乗組員の皆様の健康状態把握のため、毎日の検温をお願いします。
出勤時に休日分も含め下表の名前の欄に検温時の体温をご記入ください。(上欄:出勤前、下欄:出勤時第三者検温)
出勤前に37.5℃以上の発熱がある場合は出勤を控えてください(衛生管理者)

氏名	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日
乗組員A	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員B	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員C	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員D	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員E	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員F	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員G	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員H	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員I	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員J	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員K	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
乗組員P	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃



図 8 船橋における空気清浄機設置の例 (DAIKIN, MCK70X)

- (3) 2 日以内に帰港できる海域でのみ航海を実施 (図 9)
- (4) 実習中に発熱やその他感染の兆候が疑われた時、速やかに隔離できるように乗組員以外の定員を 7 人 (1 人 1 部屋) と定める
- (5) 実習生にそれぞれ 1〜7 の番号を割り当て、スクールバスの座席や居室・教室での着席場所、実習時の配置等を指定
- (6) 実習生同士が密集しないように配慮し、基本的な待機場所を居室に設定
- (7) 適宜水分補給ができるよう学生教室にお茶を設置
- (8) 実習終了後、実習生の各居室、使用した器具類の消毒を実施

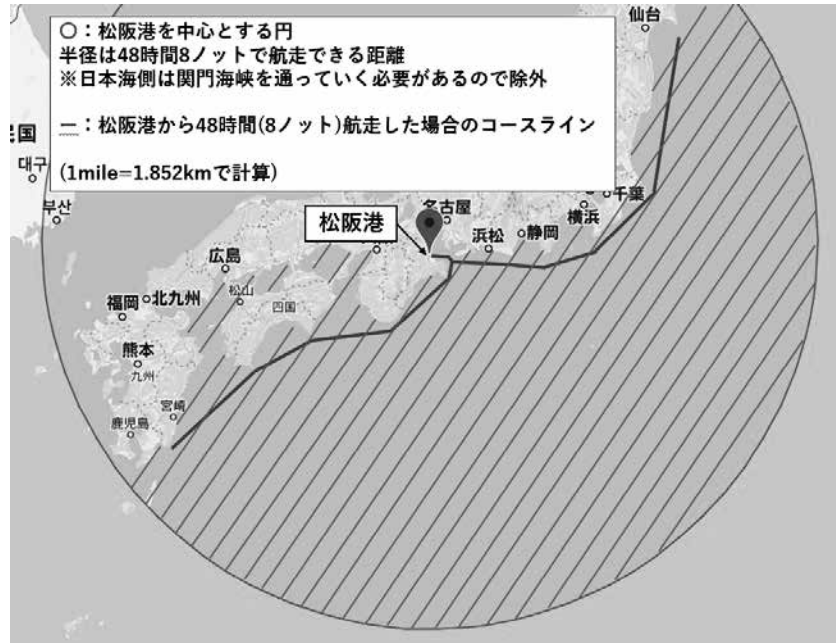


図9 48時間以内に松阪港に帰港することのできる航海域の範囲

4.3 検査および一般修繕工事（ドック）期間中における対策

保健管理センター指示の下、特別警戒区域である大阪府滞在中は乗組員に対して勤務時間外での行動を含み以下の感染防止対策を行った。

- (1) 各乗組員に滞在日数分のマスク、ハンドソープ、携帯用消毒液スプレーの支給
- (2) 毎朝の検温の記録および行動履歴の記録を指示
- (3) 定期的な手洗い、消毒を習慣づけるよう注意喚起
- (4) 休日を含め外出時にはマスクの着用を指示
- (5) 公共交通機関利用時にはマスクの着用に加え、混雑する時間帯を避ける、混雑している車両を避けるよう指示
- (6) カラオケやライブハウスなど三密を回避できない店舗への入店を禁止
- (7) 外食時は4人以下とすること
- (8) 外出中でも必要に応じて支給した携帯用アルコールなどを使用して手指の消毒を行うことを指示
- (9) 信憑性のない報道等に惑わされないよう注意喚起

5. 他大学との連携

令和2年4月16日、本船より全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会の構成員である他大学（校）の練習船（北海道大学：おしよ丸・うしお丸、東京海洋大学：海鷹丸・神鷹丸・青鷹丸、広島大学：豊潮丸、水産大学校：耕洋丸・天鷹丸、長崎大学：長崎丸・鶴洋丸、鹿児島大学：かごしま丸・南星丸）に向けてコロナ禍での運航状況、感染防止対策の情報共有を求める呼びかけをEメールにて行いそれぞれの船舶で行っている感染防止対策や運航状況について情報交換を行い参考とした。各大学練習船の感染防止対策もマスクの着用、消毒の徹底や勤務体制の変更など本船同様のものが多く、実習の形態に関してもオンラインでの代替実習を実施している練習船が多く見られた。また、海技士という国家資格の取得に関わる学部4年生、水産専攻科の実習に関しては乗組員、乗船学生が全員PCR検査を受け陰性を確認してから実習を行う対応をとった練習船もあった。その後も継続的に情報交換を行い令和2年7月22日に各大学・各船舶の意見を取りまとめたところで一区切りとし、令和3年3月25日、令和2年度全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会がオンラインによって行われ、議題の一

部でそれぞれの練習船で行っている感染防止対策について改めて意見を交換した。一部の大学ではそれぞれ独自に新型コロナウイルス感染防止対策に関する船内マニュアルを作成しておりそれに従って運航を行っているということであった。本会議で述べられた各大学の練習船で行っている感染防止対策については令和2年度全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会議事録にまとめられている。

6. おわりに

上記に挙げたような様々な感染防止策を講じ、またそれに可能な限り遵守した乗組員はじめ実習生、関係者の方々のご協力もあり、幸いにも今日に至るまで本船での新型コロナウイルス陽性者は確認されていない。

本船では実習の一環として実習生に感想文をレポートとして課しているが、その内容を見るに、例年の実習とは違い、かなり限られた実習状況であっても、実習に対して非常に前向きな感想が多く見られた。特に船内生活や実際に航海に出るといふ非日常味溢れる環境が良い刺激となったようだ。令和2年度に行われた乗船実習とは別科目ではあるが、本船の教員が航海実習に参加する学生に対し座学での講義（海事概論：海洋生物資源学科・学科必修科目、2年次後期開講）を行っており、前もって蓄えられた知識に実際の体験が相乗となって有意な結果が得られたと感じるところであり、令和3年度においても同様の効果を期待するところである。

本稿執筆現在（2021年12月）では感染症拡大の沈静化が見られているが、同時にオミクロン株といった新たな変異株の出現もあり、油断を許さない状況である。今後も感染防止対策は怠らず、新たに取り入れられる情報、感染防止対策があれば可能な限り取り入れていき、本船での感染防止対策を日々更新していくような刷新性と柔軟性を兼ね備えた対応を行っていく予定であり、本船に関わる全ての人の健康と安全な運航を心がけ努めていく次第である。

以上、本稿は本学の令和元年に新型コロナウイルスが確認されて以来、本学の令和3年度12月までの経過をまとめたものであり、今後コロナ禍

が収束してかつての日常が戻ることを願うばかりである。

謝 辞

本稿を作成するにあたって、日頃から感染防止対策に協力していただいている乗組員の皆様、感染予防対策にアドバイスを頂いた本学危機管理委員会の皆様、研究科対策本部の皆様、研究科チーム（事務）の皆様、保健管理センターの皆様、そして本稿を作成するにあたって参考とした情報をご提供いただいた全ての皆様に御礼申し上げます。

要 約

令和2年1月より、感染拡大を見せた新型コロナウイルス（COVID-19）は、今日の社会構造、経済等に様々な影響を与え、三重大学生物資源学研究科附属練習船勢水丸（以下、本船）も例外なくその影響を受けた。三重大学全体では、対面授業の禁止や遠隔地への移動の制限等の対策が取られた。本船においては、船舶という閉鎖的な環境であったため、まず取られた処置としては運航の停止であった。その後、大学内の様々な関係各所と協議した結果、必要な感染防止対策を取った上での運航が令和2年9月より可能となった。またこの時期においては大学全体でも一部対面授業の実施など制限の緩和が行われていた。本船において、主な感染防止対策として行ったことは、本船の乗組員、乗船者に日々の衛生意識を呼び掛けること、体調管理・記録を義務付けることであった。航海を行うにあたっては、全ての乗船者を個室の対応とすべく乗船者の人数を7人までに制限した。このような体制で可能な限りの航海を行った結果、令和2年度に最低限行うべき航海実習を全て行うことができた。令和3年度には、新型コロナウイルスワクチンの接種も始まり、今後も必要な感染防止対策を行った上で本船の安全な運航に努める次第である。

引用文献・資料

- 1) 厚生労働省ホームページ（2021/12/15 閲覧）
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/>

- bunya/0000164708_00001.html
- 2) NHK 特設サイト コロナ関連記事全記録
(2021/12/15 閲覧)
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/>
- 3) 三重大学新型コロナウイルス感染症への対応について (2021/12/15 閲覧)
<https://www.mie-u.ac.jp/COVID-19/>
- 4) 文部科学省 教育関係共同利用拠点制度について (2021/12/15 閲覧)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1287149.htm
- 5) 練習船勢水丸ホームページ 教育関係共同利用拠点 (2021/12/15 閲覧)
<https://seisuiamaru.bio.mie-u.ac.jp/recruit.html>
- 6) 練習船勢水丸ホームページ 本船への訪船について (新型コロナウイルス感染拡大防止) (2021/12/15 閲覧)
<https://seisuiamaru.bio.mie-u.ac.jp/posts/news3.html>
- 7) 内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策 (2021/12/15 閲覧)
<https://corona.go.jp/>
- 8) 三重県新型コロナウイルス感染症特設サイト (2021/12/15 閲覧)
<https://www.pref.mie.lg.jp/covid19.shtm>
- 9) 国土交通省海事局：海事法令集 2020 年版, 海文堂, p.382, (2020)
- 10) 三重大学保健管理センターホームページ (2021/12/15 閲覧)
<https://www.mie-u.ac.jp/health/>
- 11) 大阪府新型コロナウイルス感染症関連の特設サイト (2021/12/15 閲覧)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/default.html>
- 12) 三重大学ホームページ 三重大学における行動指針 (2021/12/15 閲覧)
<https://www.mie-u.ac.jp/COVID-19/item/f99fd0d061af2e7191b696d5ec944d31.pdf>
- 13) 三重大学ホームページ 現在の重点留意事項 (2021/12/15 閲覧)
https://www.mie-u.ac.jp/COVID-19/item/01_zyutenryuizikou-211111v2-1.pdf
- 14) 日本航海学会：NAVIGATION 特集 海事分野における新型コロナウイルス対応 日本航海学会, 2-27 (2021)
- 15) 三重大学ホームページ 対面授業や実験・実習などにおける感染予防対策について (2021/12/15 閲覧)
https://www.mie-u.ac.jp/COVID-19/item/taimenjugyo_yobo_20210527.pdf